

万病の免疫法（新しき世界へ 1968年8月号）

桜沢如一

私共はまづナゼすべての禍の根源である病気が起こるのかと云ふことを考へます。宇宙の森羅萬象は一定の秩序に従って生起し、又消滅してゆきます。これは西洋の科学でも「自然の齋一性」としてハッキリ認めています。また科学が永遠の努力をしても、いかなる犠牲を払つても、獲得しようとしている理想「真理」も、つまりこの「自然の齋一性」の信仰あればこそなりたつて居るのです。古くは「ラプラスの魔」でも新しくはエジントン・デーンズが確かに数学者にちがいないと云つて居る「宇宙の創造者」でもキリストの神やシヤカの仏でもみんなこの大きな秩序のことなのです。私はそれを現代風に「宇宙の秩序」とよびませう。この秩序を犯すものに与へられる最も大きな刑罰が病気なのです。そして悲しいことに私たちはみな大なり小なり毎日この厳然たる宇宙の秩序を犯すことばかりを知らずに居るのです。さてこそこの混乱、この対立、この争闘です。

この秩序を犯す数々の罪悪の中で最も大きく最も根本的で、広いのが食生活にあります。食生活は「生命」の第一根本条件ですから、これを犯すとあらゆる生命現象—健康、力、美、強弱、思想、行動、事業、盛衰、つまりあらゆる生理的現象と心理的現象に秩序が失はれ、すなはち無秩序な状態が現はれます。それが病気です。人類が今全體病気をしているとするれば、それは人類がこの宇宙の秩序を犯すことをしている証明です。健康とは秩序ある肉體の状態でせう。この秩序を自然と云ひ替へてもいいでせう。すると健康とは自然な状態であつて、最も大きな健康は最も平凡な何の人口も作為も加えない自然であり、病気とは不自然であり、その病気の中でも最も重いのが最も大きな不自然をあえて犯した結果なのでせう。いや不自然そのものが、もう病気そのものなのです。

こう申せばクラーク博士その他科学文明を否定する人の云ひ分にも正しさがあることが分ります。なぜなら科学文明は人類の歴史あって以来、空前の人工であり、作為であり、不自然であります。第一、科学者自ら自然征服を目標としてさへいるのです。

それはトニカク、私共は食物を口に入れ、三十二枚も三十六枚もある歯でたった二、三回ぐらいしかかまらずにのんでしまふのです。せめて一枚で一回づつ三十二回でもかんではどうでせう。歯はかざりではないのですし、又人間の歯は人に咬みつくためのものでもなささうですあら、よく食物をかみしめたらいいでせう。それが秩序ではないでせうか？歯があるからよく噛むと云ふのはリッパな秩序です。それに人間の食物は大部分が含水炭素（デンプン）で、これは唾液だけが主に消化分解する酵素をもっているのですし、その唾液はよく噛まなくては出て来ないのでから、よく噛むと云ふカンタンなことが、実は由々しき秩序であることが分ります。蛋白質は胃液が主として分解を司り、脂肪は、腸の分泌する酵素が主として司ると云ふ実にリッパな秩序があるのです。

歯の秩序だけでも大変貴重な宇宙の秩序とのつながりをもっているのです。よく噛むことが人間にはゼヒ必要です。これを世界中で一番正しく守るのはコメと云ふ含水炭素を主食する日本民族でなくてはならない筈です。

食生活の秩序の第一課はしかし、先づ正しい食物をえらぶことです。人間が食ふべき食物は太古から秩序づけられているのです。それを再発見することです。その第二課は正しい調理です。そして第三課が頂き方であり、その第一節は食物の取り合はせと分量で、第二節がかみ方であります。こんな事はもう何十冊と私が拙い筆で書いたことですし、廻らぬ舌で三十年近くもおしやべりしたことですから、もうここにはくり返へしません。それに正しい食物のえらび方だけでも、この頃の如くインチキ食品の多い時世では大変です。

以上の如き食生活の秩序は、実は実行においては世にもカンタンな事ですからそれこそ、ニイチエが探しもとめた「誰にでも、何時でも、どこでも手に入るもので、しかも実 hands のかからぬ食生活」なのです。これを実行することは、トテモ「社会医学」の様な大

げさな努力とお金の何億分の一にもあたらないことです。これを私共は真生活と呼びます。その効果や理論や、実行性についてはもう、時間とインキを費やすことを止めませう。皆さんで正確な体験によって判断して下さい。真剣に実行して下さい。私共は一生懸命にやっているつもりでも、そこは人間のあさましさ、あさはかさで、必ずいろいろ小さな点で秩序を犯しているものです。「行」のむづかしさは、実行すればするほどよく分ってくるのがほんとうです。そして小さな秩序ほど実は重大な結果を招くものであると云ふことがおいおいお分りになりませう。

宇宙の秩序を破ると云ふことは、たとへそれが食物のカミカタ位の小さな点においても大へん恐い結果を私共の食生活に及ぼすのです。それは小さな事ですが、こと生命に関するのですからいや、その生命のモトなのですから、それは私共の食糧経済や、健康や、人口問題や、国家の興亡にさへ影響するのです……

偶像崇拜は西洋でも手きびしく排斥されます。けれども今日ほど偶像崇拜の盛んだつた日はなかったと私は思ひます。医学や、病院や、薬や「社会医学」や、ビタミンや、栄養や、さまざまの偶像が白昼堂々で行はれています。偶像とは広大無辺な宇宙の秩序の不完全な模造品でせう。

人は多くの計画や政策を実現するために大きな努力をします。しかし成るのは神の意志のみであります。神の意志は宇宙の秩序に現れます。だから宇宙の秩序に法ることこそ神の意志にそふ事です。「神の審判は真実にして悉く正しい」と二千年の昔から云はれます。その神の意志を守るにも、一髓全體何が神の意志であるか分らないで、ただ我をすてよとか、無私になれと云はれます。それがお互様分らないので人はみな苦しみ悩み、争ひ、戦ひ、働き、病んでいるのです。今私共は宇宙の秩序と云ふ簡素な子供にも分る體系でそれを理解したのです。私はただもう宇宙の秩序を犯すことさへ気をつければ、何ものをも恐れる必要はありません。ただ恐れるのは自分です。この私が宇宙の秩序をややともすれば知らずに、又は知りながら破るのです。「正しいと信ずることを話し、実行しさへすれ

ば、世の圧迫や罵倒、迫害は恐るる事はない」とはげまされても正しいと「思ふ」とか、「信ずる」のではまだ不安でした。しかし、宇宙の秩序の原理をハツキリ発見したものは正しいことを「知っている」のです。「正しさ」マコトをもっているのです。神の意志を體得する「行」に入っているのです。もう何ものをも恐れる事はありません。

昔、ギリシャ人は橋をかけるにも河神に人間の横暴を謝し、いきにえを供へ、古代ゲルマン人は樹木を傷ければ死をもってその罪をつぐなはねばならなかったと言はれます。日本にこの習慣がありました。今もあります。

科学する人々はよく神様をもち出すと嘲笑します。少くとも耳をかたむけない人が多いです。けれども、神とは、科学が大きい犠牲を払って探している真理の本體の古名です。西洋の大科学者と云はれる様な人々はみんなほんとうに敬虔な神を信ずる人々です。ニュートンでもバストゥールでも……一人も例外はありません。ソルボンヌ大学でもケンブリッジ大学でも礼拝堂をもたない大学はありません。

十数萬人の病者を指導した私は、それらの人人から神を信じない人々だけが病気になるものだと云ふ大きな事実を深く深く教へられました。神を信じない人々は一度食物療法で治ってもまたすぐ病気になります。そんな人々を相手にしてみてもタマリマセンから、私は最近数年来は食物療法よりも宇宙の秩序を説くことに力を入れて来たつもりです。けれどもまだ私自身の修行が足りないため、大した効果は見えていませんが、しかし、これが最上の法にちがひない、と云ふ確信は十分に与へられました。

すべての病気は神を知らないことから起ることを私は断言します。まちがってみたら教へて下さい。宇宙の秩序を守っているのに病気になったらまだ、実は自分がよく神を知っていないからです。何か小さな小さなそして大きな間違ひをしているのです。神、宇宙の秩序はそれほど大きく無限で、それほど小さい中にも充ちているのです。この原因をとりぞくことなどユメにも考へないで、お金で健康や生命を買ふと云ふのはムリな相談です。神様はお金がいりません。そして生命や健康はそれ自體神様であり。宇宙の秩序です。だ

から神から遠ざかることが唯一の罪であり、そして最大の不幸であります。これが私の萬病絶対免疫法です。これは一生有効でしかも無料です。

此の世の神(真)が何であるか我々は知る事は出来ない、と云ふ人があります。科学もそれです。何と云ふ気の毒な不幸なことせう!キット神があまりに簡素な姿をもっているからせう。それは大人よりも又学者よりも少年少女の方がかへってよく分る様です。神を知ることがソナナに六ヶしい事だったらこの世に一人も幸せな人間がいなくなるでせう。

神様(宇宙の秩序)と共に生活することほど!ノンキなことはありません。もう何もかも許された気持ちでられます。この気軽さは全ての享樂よりも私たちを幸福にしてくれるものです。何の心配も全くいらぬのです。ただコンコンとあふるる泉の様に夜も日もあふれ止まぬ恩寵をコクコク赤ン坊の様にのむだけでいいのです。神はいかなる罪惡をも許し給ふのです。

私はまだ何百枚でも書きつづけたくなりました。

しかし、ここで筆をおきませう。世の中はクラーゲスやガンヂイが厳しく責める文明で窒息しさうになっています。これは空中に充ちみちてみいる細菌よりもはるかに恐ろしいです。しかし、細菌が、神と共にある人、生命をもっている人、宇宙の秩序に従っている人々にとっては何の害もなすものではないばかりでなく、実に細菌なしには生きてゆく事もできないほど私共にとってそれは大切なもので、私共がややともすれば宇宙の秩序、神の意志に反しようとするのを警告してくれる先生であり、指導者である様に、文明も、科学も社会医学も、世界をつつむ爆弾の煙と轟音と血の闘争も私たちに宇宙の秩序が如何に森厳で神聖で犯すべからざるものであるかを教へてくれるものです。

「最も美しいものの根底には最も恐るべき呪ひがある」と「聖痕」の著者は教へています。細菌でも戦争でも、苦しいもの、不快なものがあつたら、それはまだドレホド自分が宇宙の秩序を體得していないかを教へるメーターです。私共はしづかにそれを読みとって考へませう。

(桜沢如一先生著。人間革命より。1948.1.18 発行)

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください